

授業科目	*看護総合演習				単位	1		
履修	必修	関連資格			ナンバリング	NU31407J		
開講年次	4	開講時期	通年	該当DP	DP2-1 DP3-1 DP3-2 DP4-2 DP4-3			
担当教員	大嶋 満須美、小田 日出子、布花原 明子、石井 美紀代、鹿毛 美香、高橋 甲枝、吉原 悦子、梶原 江美、前田 由紀子、財津 倫子、一期崎 直美、中原 智美、隅田 由加里、樋口 由貴子、溝部 昌子、金山 正子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>看護実践及び専門領域上の自己の課題を探求するために、主体的に既習の知識・技術の統合を図りながら、課題への適切な介入の方法を討議・検討し、実習計画を立案する。看護総合実習での成果を基に、レポートを作成し、実習における実践を考察する。発表要約を作成し、グループ間で発表し、意見交換を行う。(看護総合演習は看護総合実習の事前事後演習として位置づける)</p> <p>授業は専門領域における実務家教員が各自グループメンバーの課題を踏まえ演習を進める。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<p>1.関心ある領域における知識・技術を深めることができる。(DP2-1)</p> <p>2.看護総合実習における自己の課題について説明することができる。(DP3-1)</p> <p>3.自己の課題を基に、看護総合実習における根拠に基づく実践を計画立案することができる。(DP2-1,4-2)</p> <p>4.テーマに沿って、看護総合実習における成果を基に、レポートを作成し、実践を考察する。(DP3-2,4-2)</p> <p>5.発表要約を作成し、発表を行い、意見交換ができる。(DP4-3)</p>							
達成度評価								
評価と評価割合／評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	60	20	20	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			40		20		60	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)				10			10	
関心・意欲 (DP3-2)			10				10	
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)				10			10	
態度 (DP4-3)			10				10	
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<p>①関心ある領域における知識・技術を積極的・主体的に深めるとともに、自己の課題について、グループ間で討議・検討し、広い視野から考えることができる。</p> <p>②課題を基にした看護総合実習の計画立案では、関連する文献を読み込み、根拠に基づく実践を志向することができる。</p> <p>③レポート作成においては、看護総合実習の成果を基に、可能な限り先行研究を調べ、検討し、客観的・科学的に看護・教育を考察する。</p> <p>④発表要約を作成し、わかりやすく効果的な発表を行い、積極的に意見交換を行うことができる。</p>				<p>①関心ある領域における知識・技術を深め、自己の課題について考えることができる。</p> <p>②自己の課題を基に、看護総合実習の計画立案ができる。</p> <p>③看護総合実習の成果を基に、テーマに沿ってレポートを作成し、看護及び専門領域を探求する。</p> <p>④発表要約をもとに、グループ間で発表を行い、意見交換ができる</p>				

授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	<p>1.オリエンテーション(各担当教員) 演習の概要について説明し、その履修方法や演習の目的、達成の目安、評価の内容と方法を説明する。</p> <p>2.看護総合演習は看護総合実習の事前事後演習として位置づけ、看護総合実習に向けて学生個々の課題(事例)を明確にする。学生は既習の専門知識の整理・統合を図りながら、課題(事例)への適切な介入および必要な看護技術について、確認し熟達を図る。</p> <p>3.課題(事例)解決に向けて、看護総合実習の実習計画書を立案する。</p> <p>4.看護総合実習の成果を基に、レポートを作成する。グループ間で発表を行い、意見交換し、看護総合実習における実践を考察する。</p>	ゼミごと(6-7名の小グループ)で運営する。担当教員と調整しながら学生たちが主体的に学習活動を展開する。	学生が主体的に課題を探索し、学習する。	
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	これまでの臨地実習・演習における看護実践を振り返り、必要な事項は学習しておくこと			
テキスト	指定なし。必要に応じてプリントを配布する。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	課題に応じて主体的に文献を探索する。必要があれば、担当教員が紹介する。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	社会に出て活躍できる看護職者としての看護実践能力、人間力を養うために、自己の課題に向き合い、主体的な学習を期待します。			
達成度評価に関するコメント	学習活動は、すべて学生が主体的に計画することを原則としています。自ら積極的に学習し、グループ間で課題を共有し、討議・検討を進めていただきたい。 評価については、一連のプロセスにおいて演習に対する各自のテーマ設定や取り組み姿勢も含めて最終評価します。			

